

ベクトルと内分点

金沢光則

平成 14 年 7 月 13 日

問題

$\triangle ABC$ の 2 辺 AB, AC をそれぞれ $1:1, 2:1$ に内分する点をそれぞれ D, E とし, 直線 BE, CD の交点を P とする。 \overrightarrow{AP} を $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}$ で表せ。また, 直線 AP と辺 BC の交点を Q とする。このとき, 比 $BQ : QC, AP : PQ$ の値を求めよ。

よくある問題であるが, 教科書にある $t : 1-t$ とおくやり方しか知らない生徒が多いのでまとめてみた。ここでは次の 5 つの方法で解く。

- (1) $t : 1-t$ とおく。
- (2) ベクトル方程式の性質 $\overrightarrow{AP} = p\overrightarrow{AB} + q\overrightarrow{AC}$ と表されているとき, 点 P が直線 BC 上にある $\iff p+q=1$ を使う。
- (3) 斜行座標系をつかう。具体的には $\overrightarrow{AP} = x\overrightarrow{AB} + y\overrightarrow{AC}$ とおく。
- (4) おなじみ平面幾何の定理「チェバの定理」「メネラウスの定理」を使う。
- (5) 物理で考える。おもりの釣り合いで解く。

1 $t : 1-t$ とおく方法

図のようにおくと, P が直線 BE 上にあることから,

$$\overrightarrow{AP} = (1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AE} = (1-t)\overrightarrow{AB} + t \cdot \frac{3}{2}\overrightarrow{AC}$$

P が直線 CD 上にあることから,

$$\overrightarrow{AP} = (1-s)\overrightarrow{AD} + s\overrightarrow{AC} = (1-s) \cdot \frac{1}{2}\overrightarrow{AB} + s\overrightarrow{AC}$$

よって, $(1-t)\overrightarrow{AB} + t \cdot \frac{3}{2}\overrightarrow{AC} = (1-s) \cdot \frac{1}{2}\overrightarrow{AB} + s\overrightarrow{AC}$

$$\overrightarrow{AB}$$

, \overrightarrow{AC} は一次独立だから $1-t = \frac{1-s}{2}, \frac{3t}{2} = s$

これを解いて, $s = \frac{1}{2}, t = \frac{3}{4}$. よって, $\overrightarrow{AP} = \frac{s}{2}\overrightarrow{AB} + (1-s)\overrightarrow{AC} = \frac{1}{4}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}\overrightarrow{AC}$

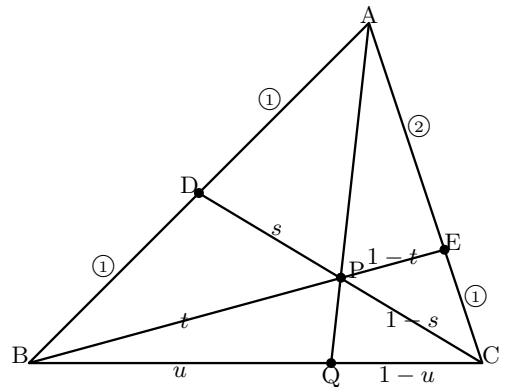
Q が直線 BC 上にあることから, $\overrightarrow{AQ} = (1-u)\overrightarrow{AB} + u\overrightarrow{AC}$

また \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{AQ} は平行だから, $\overrightarrow{AQ} = k\overrightarrow{AP} = \frac{k}{4}\overrightarrow{AB} + \frac{k}{2}\overrightarrow{AC}$ と表せる。

よって, $(1-u)\overrightarrow{AB} + u\overrightarrow{AC} = \frac{k}{4}\overrightarrow{AB} + \frac{k}{2}\overrightarrow{AC}$ となり, $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}$ が一次独立ゆえ $1-u = \frac{k}{4}, u = \frac{k}{2}$

これを解いて $u = \frac{1}{3}, k = \frac{4}{3}$

よって, $AQ : QC = u : 1-u = \frac{2}{3} : \frac{1}{3} = 2 : 1, AP : PQ = 1 : k-1 = 1 : \frac{1}{3} = 3 : 1$



2 ベクトル方程式

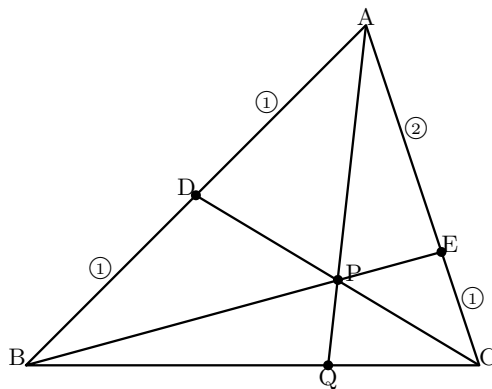
上の途中で、 $\vec{AP} = \frac{1}{4}\vec{AB} + \frac{1}{2}\vec{AC}$ がでた。

ここで、 $\vec{AP} = \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{4} = \frac{4}{3} \cdot \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{3}$ と変形すれば、 $BQ : QC = 2 : 1$, $AP : PQ = 3 : 1$ であることがわかる。なぜなら、 $\vec{AR} = \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{3}$ とおけば、 $AP \parallel AR$ であり、 R は直線 BC 上にある。したがって $R=Q$ だからである。このアイデアを最初から使っていこう。

$$\vec{BE} = \frac{\vec{BA} + 2\vec{BC}}{2+1} = \frac{2\vec{BD} + 2\vec{BC}}{3} = \frac{4}{3} \cdot \frac{\vec{BD} + \vec{BC}}{2} \text{ よって, } DP : PC = 1 : 1, BP : PE = 3 : 1$$

$$\text{よって, } \vec{AP} = \frac{\vec{AD} + \vec{AC}}{2} = \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{4} = \frac{3}{4} \cdot \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{3}$$

よって、 $BQ : QC = 2 : 1$, $AP : PQ = 3 : 1$



3 斜行座標

$\vec{AP} = x\vec{AB} + y\vec{AC}$ とおく。

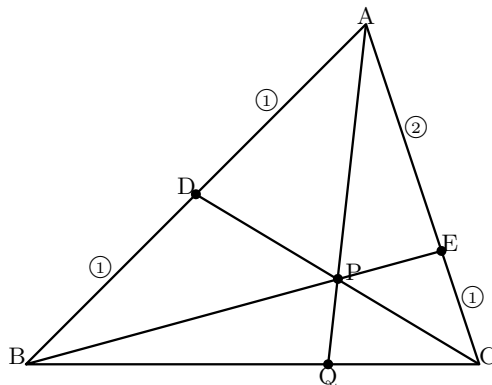
このとき、 \vec{AB} , \vec{AC} が直交する単位ベクトルなら、 x, y はこの2つのベクトルを基本ベクトルにもつ通常の直交座標である。 \vec{AB} , \vec{AC} がそうでないとき、斜行座標系という。基本は前のベクトル方程式の性質である。

$$\vec{AP} = x2\vec{AD} + y\vec{AC} = x\vec{AB} + y\frac{3}{2} \cdot \vec{AE}$$

P は直線 BE, CD 上にあるから、 $2x + y = 1$, $x + \frac{3}{2}y = 1$.

$$\text{これを解くと, } x = \frac{1}{4}, y = \frac{1}{2}. \text{ よって } \vec{AP} = \frac{1}{2}\vec{AD} + \frac{1}{2}\vec{AC} = \frac{1}{4}\vec{AB} + \frac{1}{2}\vec{AC}$$

さらに、 $\vec{AP} = \frac{3}{4} \cdot \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{4}$ から $BQ : QC = 2 : 1$, $AP : PQ = 3 : 1$ とするのは前と同じである。



4 メネラウスの定理

チェバ、メネラウスの定理は、一筆書きのように続けて比をかけていくと1になるという定理である。証明は簡単なので、数学 A の平面幾何を見てください。

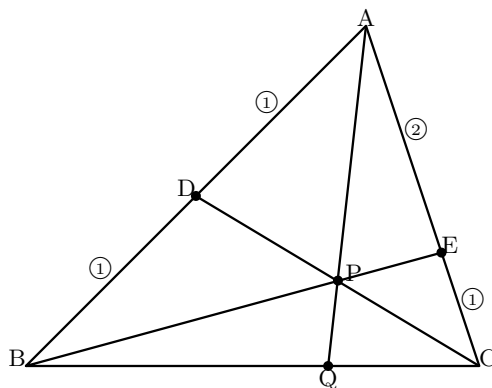
$$\text{チェバの定理から, } \frac{AD}{DB} \cdot \frac{BQ}{QC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1$$

$$\text{これから, } \frac{1}{1} \cdot \frac{BQ}{QC} \cdot \frac{1}{2} = 1 \text{ よって, } BQ : QC = 2 : 1$$

$$\text{メネラウスの定理から, } \frac{AD}{DB} \cdot \frac{BC}{CQ} \cdot \frac{QP}{PA} = 1$$

$$\text{これから, } \frac{1}{1} \cdot \frac{3}{1} \cdot \frac{QP}{PA} = 1 \text{ よって, } AP : PQ = 3 : 1$$

$$\text{よって, } \vec{AP} = \frac{3}{4}\vec{AQ} = \frac{3}{4} \cdot \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{3} = \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{4}$$

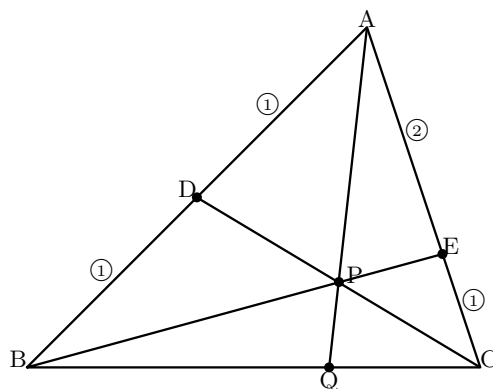


5 おもりの釣り合い

$\triangle ABC$ の頂点におもりをおいて、点 P で支える。直線 BE で支えると、A に 1 g, C に 2 g おけば釣り合う。このとき、直線 CD で支えると、B に 1 g おけば釣り合う。直線 AQ で支えると、B には 1 g, C には 2 g あって釣り合うので $BQ : QC = 2 : 1$ 。また AQ を天秤棒とし P で支えると、Q には $1+2g$, A には 1 g あって釣り合うから $AP : PQ = 1 : 3$

$$\text{よって、}\vec{AP} = \frac{3}{4}\vec{AQ} = \frac{3}{4} \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{3} = \frac{\vec{AB} + 2\vec{AC}}{4}$$

言葉で書くと長くなるが、図に書き込んでいけば簡単にわかる。



6 おすすめ

一次独立の概念はとても重要であるが、簡単に使うという点では、他のやり方の方が楽であることが多い。2番目のやり方の元になる考え方は重要であるし、この方法を勧めたい。

物理が得意でセンターなど簡単に出したいなら、5番目のやり方もお勧めである。

よくメネラウスが簡単だという話があるが、複雑な状況で、使えるかどうかははっきりしないとき、よく理解しないで使うのは間違いを起ししやすい。

7 おまけの問題

問題

正六角形 ABCDEF において、BD, CE の交点を P とする。このとき、 \vec{AP} を \vec{AB}, \vec{AF} で表せ。

$\triangle BPE$ と $\triangle DPC$ が相似であることを使えば簡単にわかるが、ここでは純粹にベクトルだけを使って解いてみよう。

P の位置を決める。P は BD と CE の交点だから、 \vec{BP} を考えよう。

$$\vec{BD} = \vec{BC} + \vec{CD} = \vec{BC} + \frac{1}{2} \cdot \vec{BE} = \frac{3}{2} \cdot \frac{2\vec{BC} + \vec{BE}}{3}$$

よって $CP : PE = 1 : 2$

$$\text{よって}\vec{AP} = \frac{2\vec{AC} + \vec{AE}}{3} = \frac{2(2\vec{AB} + \vec{AF}) + (\vec{AB} + 2\vec{AF})}{3} = \frac{5\vec{AB} + 4\vec{AF}}{3}$$

